

# 埼玉育ちのグローバル人

世界の果てに住んでみた

第2回 「イギリス：世界観光地ランキング

1位の都市に住んでみた」



SAITAMA

埼玉県マスコット「コバトン」

平成29年度「埼玉発世界行き」奨学生

駒橋 冴季さん



みなさん、こんにちは。前回は青年海外協力隊で赴任したサモアでの家族観の変化についてお話ししました。今回は、サモアから日本に帰国した後に大学院に留学したイギリスでのカルチャーショックについてお伝えしたいなと思います。

サモアとは対照的に、イギリスは観光地ランキング1位になるくらい、多くの日本人の方が行ったことがある、あるいは行ってみたいと思ったことがある国ではないでしょうか？しかも私の大学はロンドンにあり、留学中は（サモアとは異なり）たくさんの友達が遊びに来てくれました（笑）



ロンドン

留学に興味のある方もいると思いますが、そんな方は私が以前寄稿したこちらの記事を参照いただければと思います。<https://www.ggsaitama.jp/wp-content/uploads/2020/04/P11.pdf>

ご想像の通りイギリスでの留学生活は、サモアでの生活とは全く異なりました。まず全てが発展していて、タッチ式のキャッシュカード1枚で電車もバスも買い物もレストランも全ての用が済みました。日本食レストランもいくつもあり日本の食材も入手できました。そして、何よりも感動したのが、国際色豊かでどんな人でも受け入れられているということを実感したことです。ロンドンに着いたその日から、誰にもジロジロ見られることなく、「中国人！」と呼ばれることもほとんどありませんでした（サモアでは日常茶飯事）。また到着した週末にはプライドパレードと呼ばれるLGBTQの人々のためのパレードが催され、毎年150万人近くの人々が参加するというので、そのエネルギーに圧倒され大変感動しました。ちなみにその翌年は観客ではなくパレード参加側として行進することができ、一生の思い出になりました。



プライドパレード

学校が始まり多くのクラスメートと知り合って交流していく中で最も大きかったカルチャーショックは、「何人」という定義が崩されたことです。例えば、みなさんが「あなたは何人ですか?」と聞かれたら迷わずに答えられますか?私は「日本人です」と即答できます。国籍、親の国籍、生まれた国、育った国、パスポートが全て日本だからです。ですが、私の友人にはそうでない人々がたくさんいます。例えば、ロシアで生まれて、キプロスで育ち、その後オーストラリアに移住し、今はイギリスで働いている友人がいます。彼はパスポートを4つ所持していて、国籍はロシアですが、両親のどちらかはロシア人ではなかったはずです。イギリスの滞在が長くなり永住権も取得できるところだと言っていました。国籍からするとロシア人かもしれませんが、ロシアにはほとんど住んだことが無いわけです。他にも、両親はインド系移民で、ウガンダで生まれ、その後カナダで育って、イギリスに来ている友人もいました。見た目はインド人ですが、インドには住んだことがなく、でもヒンドゥー教徒で親戚はインドにいるそうです。これらの人々に出会って、世界には実に多彩なバックグラウンドを持った人で溢れているんだなと感じました。そもそも「あなたは何人ですか?」という質問自体があまり意味をなさないなと感じました。これは人種にも共通します。白人、黒人、黄色人種、という括りに属さない人々も本当にたくさんいました。そのことに気づいてからは、「日本人は〇〇だ」「イギリス人は〇〇だ」「黒人は〇〇だ」などの議論にとっても違和感を持つようになりました。これは今後国際的な仕事をしていく上でもとても重要な気付きだったなと思っています。



クラスメートとの写真